

私たちの和歌山、私たちの地球

陳 思旖
教育学部 交換留学生 中国

光陰矢のごとし、知らないうちに日本に来てもう三ヶ月になりました。この間、和歌山でたくさんの意外なことを経験し、また不思議なことを感じました。たとえば、知らない人も私にあいさつすることとか、夜になると街灯が少ないからすごく暗いこととか、人々が左側を通行することなどです。なかでも、もっとも気になったのはゴミ分類です。

日本に来る前、日本は環境がいいし、日本人の素養が高いということをよく聞きました。

実際にそうです。大きなイベントなどの後、日本人は必ず自分と他人のゴミを集めて袋に入れるということもよく聞きます。ゴミ分類は簡単だといっても、実際は大変難しいと思います。



和歌山市の道を歩くと、ゴミ箱が見あたらないです。私にとって、それは大変困ることです。しかし、今は、ゴミがあれば、袋やカバンに入れ、ゴミ箱

を見つけたとき捨てます。日本に来て初めてゴミは多くの種類があるのを知りました。たとえば、一般ゴミ、かん、紙、布やプラスチックなどです。そして、それぞれのゴミを捨てる曜日も違います。私の住んでいる地域では、毎週月、木曜日は一般のゴミで、第2、4水曜日はかん、びんで、第1、3水曜日はペットボトル、紙、布で、プラスチック製容器は毎週の金曜日です。初めてこれを見たとき、面倒くさいなと思いましたが、今では、私はもう慣れて、きちんと分類ができるようになりました。ゴミ収集日の朝、ゴミがおかれている場所で同じ種類のゴミを見ると、いつもこれはいい習慣だと思います。



現在、ゴミ分類を実施している国は少ないと思います。中国人としての私は、中国で暮らしているとき、ゴミ分類をあまりしませんでした。家でも全部のゴミを一つの袋に入れて捨てます。道にゴミ箱は

たくさんありますが、分類しないで自由に捨てます。道路でいつもゴミを見つけ、少し汚いと思いますが、見て見ぬふりをして通ります。日本で三ヶ月を生活し、道でゴミがあま

り見えなかったので、中国と大きい違いをかんじました。つまり、今の中国人はゴミ分類の意識がまだないということです。政府はゴミ分類を実施したいと思っていますが、実際にゴミを分ける人が少ないと思います。それは中国が日本に学ばなければならないことだと思います。

このことは、日本だけではなく、世界全体が環境問題を重視しなければなりません。ゴミ分類は環境を守る方法の一つにすぎませんが、大変重要だと思います。今の世界は科学



が発達していて、科学と技術の発達につれ、いろいろな環境問題が出てきました。水源が汚染され、空気が新鮮でなくなり、浪費がひどくなり、人間の存在と発展が厳しい状況に直面し、地球は危険になってしまいます。自然は人間の母で、私心がなくすべてを人間に捧げます。しかし、人間はどう自然に対応していますか。これは深刻な問題だと感じます。

私たちはいつも自分の家をきちんと掃除します。もし私たちが、和歌山は私の家だと考え、日本は私の家だと考え、さらに地球は私の家だと考えれば、みんな地球を守るようになるのではないのでしょうか。私は、まず、環境を守る意識を培うことだと思います。そのためには、ゴミを見たら自ら拾う、といった小さなことが環境を守ることに繋がると思っています。最後に、私たちの住んでいる地域のために、私たちの子孫のために、私たちの地球を守りましょう。